

経営比較分析表（令和3年度決算）

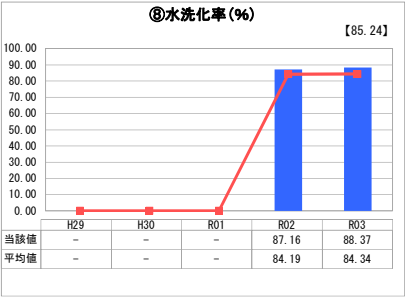
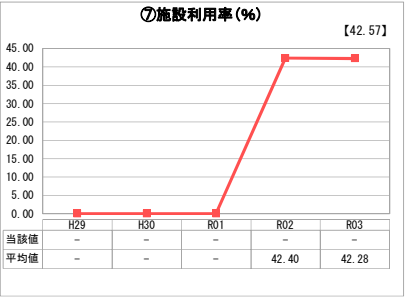
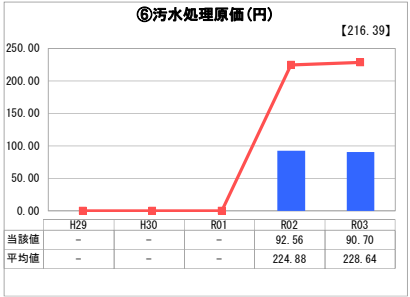
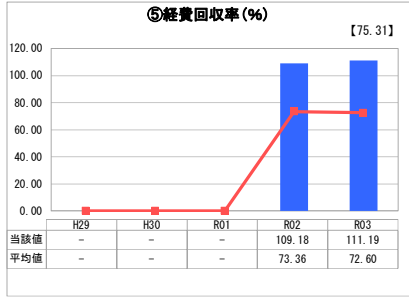
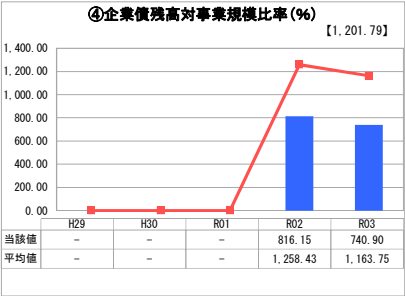
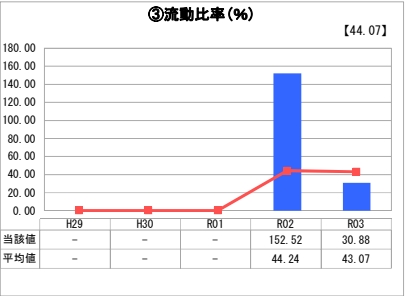
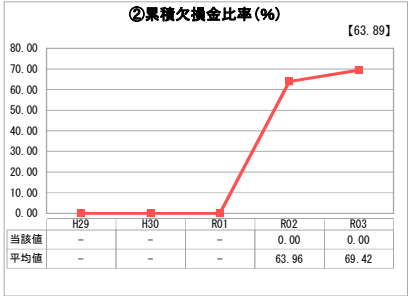
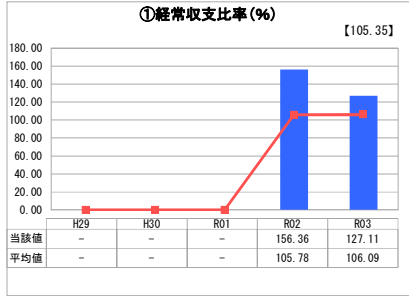
埼玉県 杉戸町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	69.79	8.23	68.25	1,870

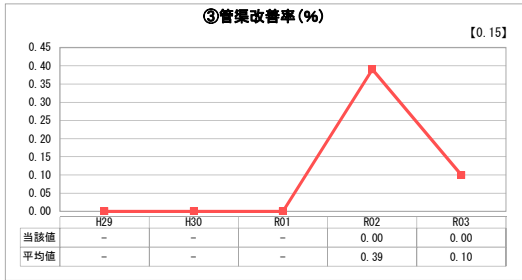
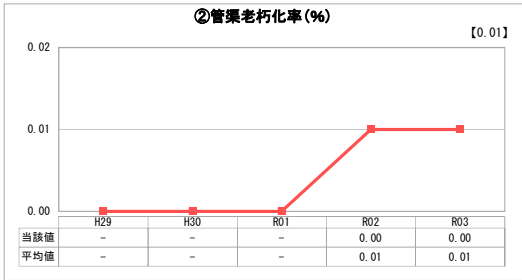
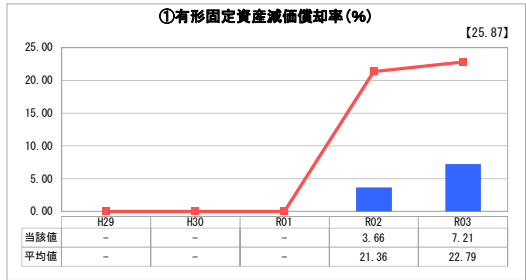
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,219	30.03	1,472.49
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,636	0.82	4,434.15

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：コロナ禍による在宅時間の増加と推測される影響が少なくなりつつあることから下水道使用料の減少、雑収益（前年度繰越金及び一般会計繰出金の財源）の皆減により前年度比で減少となった。ただし、他会計補助金に依存している比率が高いことから、今後も使用料改定の検討や不明水対策を推進する必要がある。

② 流動比率：全国平均及び類似団体と比較して大幅に下回っています。内部留保資金の蓄積がない状況のため、水洗化率の向上及び使用料の改定の検討について推進する必要がある。

③ 企業債残高対事業規模比率：全国平均及び類似団体と比較して大幅に下回っています。平成8年度の整備完了以降は、計画的なマンホールポンプの更新事業に留まっていることから、新規企業債の発行が少額であり、企業償還の進捗により低下傾向にある。

④ 経費回収率：全国平均及び類似団体と比較して大幅に上回り、100%を超過しています。ただし、下水道事業全体では汚水処理原価に対し、使用料単価の水準が低く逆ざやとなっているため、使用料の改定の検討について推進する必要がある。

⑤ 汚水処理原価：全国平均及び類似団体と比較して大幅に下回っています。汚水維持管理費（一般会計繰出金の皆減）の減少に比例して汚水処理原価が減少となっています。ただし、下水道事業全体では汚水処理原価に対し、使用料単価の水準が低く逆ざやとなっているため、今後も継続的に維持管理費の削減及び水洗化率の向上による有収水量の増加について取り組む必要がある。

⑥ 水洗化率：全国平均及び類似団体と比較してやや上回っています。ただし、未接続世帯に対して下水道接続の啓発を実施し、更なる水洗化率の向上について取り組む必要がある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率：平成8年度の供用開始から25年経過しており、耐用年数の半分に到来している。今後は、老朽化した資産の更新を検討する必要がある。

② 管渠老朽化率：-

③ 管渠改善率：-

全体総括

当時の下水道事業会計は、企業会計として独立採算を考えた場合、経常収支比率の構成内容の改善と老朽化対策が課題となると認識しています。

まず、経常収支比率の構成内容の改善では、他会計補助金に依存している比率が高いことから、今後の下水道事業の安定的な経営のため、独立採算と受益者負担の適正化による使用料の改定についての検討、下水道への接続率の向上を目指す取り組みを推進する必要がある。

次に、老朽化対策については、管渠の劣化等により、今後、施設更新や大規模改修等の資本投資が必要となるため、更新計画を策定する必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。